

特集 アスレティックリハビリテーションの奥義

introduction

本号の特集「アスレティックリハビリテーションの奥義」は、開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピックにふさわしいテーマである。整形外科に関連するリハビリテーションは運動器リハビリテーションであり、アスレティックリハビリテーションは運動器リハビリテーションに含まれるもので、多くの整形外科医が興味をもつ必須の知識である。

アスレティックリハビリテーションは日常生活動作(activities of daily living ; ADL)を支障なく行えるようになり社会復帰を目指す医療機関で実施する通常のリハビリテーション(メディカルリハビリテーション)とは異なり、さらに活動レベルの高いスポーツ競技あるいは積極的なスポーツ活動への復帰を目指すリハビリテーションである。競技のレベルはレクリエーションレベルからエリート選手・プロ選手レベルとさまざまであるが、できる限りそれぞれの受傷前に近い状態で競技復帰させ、再受傷のリスクを軽減させなければならない。また、医療機関からスポーツ現場に移行する時期に行うリハビリテーションを指す場合もある。いずれにせよ、競技レベルのスポーツ現場への復帰となると、身体機能が競技の結果に直結するものであるため、アスレティックリハビリテーションに求められるレベルも高いものとなる。

今回の特集では、部位別に各分野のエキスパートの先生方に執筆をお願いし、「アスレティックリハビリテーションの奥義」というタイトルとした。総論を松本秀男先生、肩関節の投球障害について村木孝行先生、コリジョンスポーツにおける肩関節脱臼を小野元揮先生、肘関節を坂田淳先生、手関節を関口貴博先生、腰痛を成田崇矢先生、股関節を立石聡史先生、膝前十字靱帯を佐藤孝二先生、膝関節慢性障害を小柳磨毅先生、下肢急性障害を松田直樹先生、下腿・足部・足関節周囲の慢性障害を八木茂典先生、足関節外側靱帯損傷を小林匠先生にご執筆いただいた。

『関節外科』の特集号としてふさわしい、四肢関節に加えて腰痛を網羅する素晴らしい内容になった。アスレティックリハビリテーションのエッセンスが凝縮されている。本特集が、整形外科診療を行う多くの先生方の診療の一助となることを期待する。

久留米大学医学部整形外科学教室

志波直人